

脳研究所

1967年、日本初の脳神経分野の国立大学附属研究所として発足した脳研究所は、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、脳腫瘍や脳血管障害の病因・病態解明に取り組んでいます。高齢化に伴う脳疾患患者の増加に対応し、先進的な診断法と新たな治療法の開発を進めています。また多様な発達障がいへの理解も深めています。



世界最大規模：3万点の凍結脳標本を保存している超低温冷凍庫



生きたままマウスの脳血管を透明化する技術「ソース法」の開発

災害・復興科学研究所

1978年に前身である積雪地域災害研究センターが設置され、その後約50年にわたり、積雪地域の総合的防・減災の研究機関として、研究や様々な成果の社会実装を行ってきました。研究所は、変容かつ激化する自然災害に対して適応能力が高いレジリエントな社会の構築を目指し、国内外の研究機関と連携して研究を進めています。



2024年能登半島地震による液状化被害調査



2022年新潟県北部豪雨(村上市)

全学共同教育研究組織

アジア連携研究センター

世界人口の2/3近くを占めるアジア地域をフィールドにして、文理融合・分野横断的に未開拓領域を切り拓く国際共同研究を進めています。人々の相互理解を重視しながら、アジア共通の課題の解決にも挑んでいます。

ビッグデータアクティベーション研究センター

高度デジタル社会における分野融合研究、人材育成、産学連携の推進を加速することを目的に、大規模データからの新たな知識の創発とヒューマンネットワークの活性化(アクティベーション)をらせん状に組合せ、学内外におけるイノベーションの実現を目指しています。

コメと環境の国際イノベーション共創センター(iRICE)

気候変動に伴う温暖化や干ばつ、塩害などの課題に対応するため、気候変動に対抗するイネ新品種の開発や農法の改良、水田由来の温室効果ガス削減などに関する先進的な研究を推進し、食料安全保障の確保と持続可能なカーボンニュートラル社会の実現を目指しています。

その他の施設

- 駅南キャンパスときめいと
- 佐渡サテライト
- 農学部附属フィールド科学教育研究センター
村松ステーション 新通ステーション

佐渡自然共生科学センター

森林領域(演習林)、里山領域(朱鷺・自然再生学研究施設)及び海洋領域(臨海実験所)の3つの領域・施設とコミュニティデザイン室で構成され、地域と連携、協働しながら、新しい「自然共生科学」の展開を目指しています。

フード&ヘルスイノベーション共創センター

食をめぐる社会課題への関心や健康志向の高まりを背景に、「食と健康」に関する研究が国内外で加速しています。本センターは、この領域の研究・教育・社会共創の中核として、国際水準の先端研究と、地域産業創生を牽引する研究・人材育成を推進しています。

日本酒学センター

日本酒に関わる文化的・科学的な分野を網羅する世界初の学問領域「日本酒学(Sakeology)」)。総合大学の強みを生かした領域横断型の研究を進め、新潟県および新潟県酒造組合と連携協定を結び、日本酒に係る教育、研究、情報発信、国際交流に関する事業を展開しています。

ひと脳研究資源イニシアチブ推進センター

世界トップレベルのひと脳研究資源(ブレインバンク)を基盤に、国内外の研究施設との先端的共同研究や産学連携による橋渡し研究などを推進し、基礎研究から社会実装までを見据えた幅広い研究活動を展開しています。

医歯学総合病院

地域の特定機能病院として高度かつ先進的な医療を提供しています。本院は、その理念でもある「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します」に基づく病院づくりを一層推進します。



医歯学総合病院全景

コワーキングスペース(I-DeA)

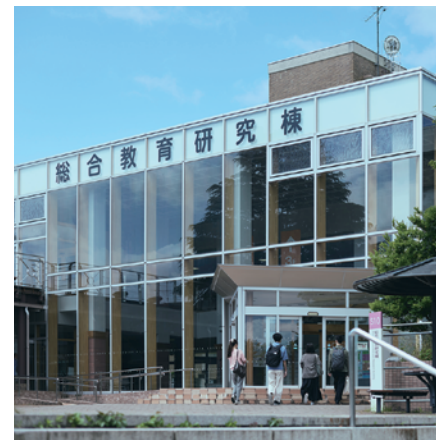
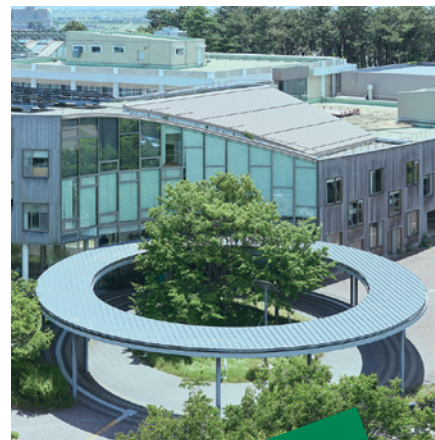
附属図書館

中央図書館(五十嵐キャンパス)と医歯学図書館(旭町キャンパス)で構成され、豊富な資料と、資料の閲覧からグループ学習まで多様な学習用途に適した空間を提供することで、本学の教育研究活動を支援しています。



中央図書館

医歯学図書館



NIIGATA UNIVERSITY DIGEST 2026





『知を結び、未来を拓く』

新潟大学は、「自律と創生」の理念のもと、複雑化する社会課題の中で「生きること」の全体に向き合い、学問と実践から生まれる知の力で、人と社会の未来を切り拓いていきます。

J-PEAKSを基盤に研究力をさらに強化するとともに、大学院再編によって分野横断的で柔軟な教育・研究体制への転換を進めています。また、FLAGs事業による大学院教育改革を全学改革の中核に位置づけ、未来社会に新たな価値を生み出す博士人材を育成していきます。

新潟大学長 染矢 俊幸



地域中核・特色ある研究大学

本学は、令和6年度の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。本事業を通じて将来ビジョン2030を発展させ、「“脳といのち”および“食と健康”のイノベーションを創出する研究拠点」の形成を目指します。本学が強みを持つこれらの重点領域にて、ひとバイオリソースバンクの強化、AI・数理情報やELSI領域との融合研究、国内外研究機関との連携を推進し、地域が頼りにし世界に貢献する研究成果の創出と社会実装を加速します。あわせて、若手人材が活躍できる環境を整備し、独自のUniversity Administrator(UA)制度を拡充することで、教職員が能力を最大限に発揮できる魅力的な職場を構築します。

研究とイノベーションを両輪として発展・強化



FLAGs

グローバル社会を牽引する博士イノベーター育成大学院拠点

本学は、文部科学省の令和7年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」に採択されました。同事業は、徹底した国際拠点形成(国際化)と産学連携教育の実施を通じて、質の高い博士人材の増加を図る大学院教育拠点の形成を支援することを目的とするもので、本学は「総合型」(申請18件・採択4件)に採択されました。本学は、10年後の大学院のVisionとして、高度な専門性と文理融合・分野横断の学際的環境のもと、『総合知』を創出する教育と社会共創事業と産学連携の場を活用した実践型大学院教育によって、総合知・実践力を備えた複合的社会課題を解決できる「博士イノベーター」を養成する大学院教育拠点を形成し、博士の学位取得者の増加を図ります。

総合知を創出する場(例)



Project

共創イノベーションプロジェクト(共創IP)

地域との共創による地域創生を推進するため、現在8つのプロジェクトが活動しています。新潟が持つ国際的優位性やブランド力と、本学が培った最新の科学・技術・学術の「知」を組み合わせた重点領域を設定し、新潟をより魅力的な地域へ発展させるためのプロジェクトを推進しています。

現在活動中のプロジェクト

コメ共創IP	おいしさDX共創IP	モノづくり共創IP
防災街づくり共創IP	地域医療DX共創IP	佐渡共創IP
未来農村★かりわ★共創IP	社会インフラ・マネジメント共創IP	

プロジェクト

佐渡共創IP

豊かな自然資源を有する佐渡島をフィールドに、自然共生社会の実現に向けた様々な試みを展開する場として、「佐渡島自然共生ラボ」を産学官連携で運営しています。多様なアクターがつながり、課題を克服しながら創造的に進化し続ける地域の創出を目指しています。



コメ共創IP

気候変動に対応したコメ品種と栽培方法の開発に向け、本学が開発した「新大コシヒカリ」を用いた実証実験を県内で実施しています。また、ベトナム・メコンデルタ地域においても、最適な栽培方法の検証および水田由来の温室効果ガス削減を目的とした実証実験を実施しています。



History & Organization

本学は、1949年に新潟医科大学と高等学校、師範学校、専門学校を統合するかたちで新制国立大学として創設されました。前身の共立病院に始まる約156年の歴史を有します。



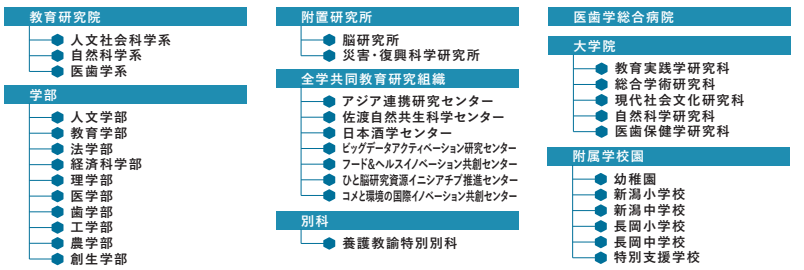
新潟大学開学式(1949年)

新潟大学の沿革→
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/organization/history/>



歴史と組織

組織図



Education System

メジャー・マイナー制

本学は、「メジャー・マイナー制」を導入し、所属学部で専門分野を学ぶ「メジャー」に加え、関心のある別分野に挑戦できる「マイナー」を組み合わせ、専門性を高め、分野を超えた知識・視野を体系的に身につけることができます。修了証としてオープンバッジを発行しますので、就職活動などで活用できます。本制度は「全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)」として整備されています。



ダブルホーム

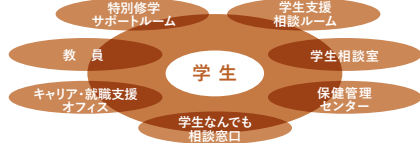
ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に、学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。第1のホームである学部・学科という専門の学びの場を越えてつくる第2のホームで「新たなふるさとづくり」としての地域活動を行っています。



学生支援

きめ細かい相談体制

学生が充実した学生生活を送れるよう、きめ細かい相談体制でサポートしています。



輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金

本学への入学を希望しながら経済的理由により進学を断念せざるを得ない学業優秀者に対して、入学時に必要となる学資の一部(50万円)を給付します。また加えて、自宅が遠く通学が困難な場合は、学生寮(五十嵐寮)の入居枠を優先確保します。

International Exchange

外国人留学生の受け入れ

グローバルキャンパスの構築を目指して、短期(数週間)、交換留学(セメスター)、学位プログラムを通じた留学生の受け入れを推進しています。

外国人留学生数	(2026年5月1日現在)
433人	※「留学」の在留資格を有する学生 ※45の国・地域から
外国人学生数	(2025年度延べ)
882人	※上記外国人留學生に加え、「留学」以外の在留資格を有する外国人留學生を含む

学生の海外派遣

グローバル人材育成を推進するため、目的や学習段階に応じて、学生に海外留学の機会を幅広く提供しています。

海外留学者数	(2025年度実績)
513人	
交換留学等による 中長期(3か月以上) の留学	25人
短期(3か月未満)の 海外派遣プログラム 参加等	488人 ※調査・研究・学会参加等を含む

交流協定・オンライン教育交流

海外の大学等と交流協定を締結し、教育・研究交流に係る国際ネットワークの構築を推進しています。また、オンラインなどICTを活用した多様な国際教育プログラムで留学交流を促進しています。(2025年度は本学学生100人と海外協定校の学生143人がオンライン留学プログラムに参加)

交流協定数	(2026年5月1日現在)
361件	※海外47か国・地域

Student & Staff

学生・教職員

- 学部生数.....10,062人
- 大学院生数.....2,237人
- 別科学生数.....47人
- 教職員数.....2,555(744)人
※特任教員等は()により外数にて区分

入学者

- 学部入学者.....2,333人
(入学定員2,250人/志願者数7,159人)
- 大学院入学者.....822人
- 専門職学位課程.....21人
(募集定員20人/志願者数28人)
- 修士課程及び博士前期課程.....648人
(募集定員607人/志願者数702人)
- 博士課程(4年制)及び博士後期課程...153人
(募集定員201人/志願者数163人)

学生と職員

(2026年5月1日現在)			
進路			
(2025年度学部卒業生、研究科修士・博士課程修了生)			
学部卒業生	2,118人		
●進学.....644人(29.0%)		●教員.....151人(6.8%)	
●公務員.....285人(12.8%)		●就職.....1,038人(51.4%)	
大学院修了生	728人		
●進学.....66人(9.0%)			
教育実践学研究科(専門職学位課程).....0人	自然科学研究科(博士前期).....41人	医歯学総合研究科(博士・博士後期).....1人	
現代社会文化研究科(博士前期).....7人	自然科学研究科(博士後期).....0人	保健学研究科(博士前期).....7人	
現代社会文化研究科(博士後期).....0人	医歯学総合研究科(修士・博士前期).....10人	保健学研究科(博士後期).....0人	
●公務員.....54人(7.4%)			
教育実践学研究科(専門職学位課程).....0人	自然科学研究科(博士前期).....24人	医歯学総合研究科(博士・博士後期).....12人	
現代社会文化研究科(博士前期).....6人	自然科学研究科(博士後期).....6人	保健学研究科(博士前期).....6人	
現代社会文化研究科(博士後期).....0人	医歯学総合研究科(修士・博士前期).....0人	保健学研究科(博士後期).....0人	
●教員.....73人(10.0%)			
教育実践学研究科(専門職学位課程).....14人	自然科学研究科(博士前期).....7人	医歯学総合研究科(博士・博士後期).....18人	
現代社会文化研究科(博士前期).....6人	自然科学研究科(博士後期).....11人	保健学研究科(博士前期).....48人	
現代社会文化研究科(博士後期).....8人	医歯学総合研究科(修士・博士前期).....1人	保健学研究科(博士後期).....7人	
●就職.....535人(73.6%)			
教育実践学研究科(専門職学位課程).....0人	自然科学研究科(博士前期).....438人	医歯学総合研究科(博士・博士後期).....48人	
現代社会文化研究科(博士前期).....17人	自然科学研究科(博士後期).....14人	保健学研究科(博士前期).....4人	
現代社会文化研究科(博士後期).....1人	医歯学総合研究科(修士・博士前期).....10人	保健学研究科(博士後期).....3人	

※医学部医学科と歯学部歯学科の臨床研修医は「就職」を含む。※進学、就職以外の者は除く。※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合あり。

●本誌記載の詳細は「新潟大学概要 2026」(URLは裏面記載)でご確認いただけます。